

2014 年度 第 3 回 断層問題に関する理工学合同委員会・幹事会 議事録

日時：平成 26 年 9 月 8 日（月） 15:00～17:00

場所：JGS 会館 3 階 小会議室

出席：國生剛治，大塚康範，堀宗朗，末岡徹，谷和夫，藤井幸泰

（欠席者：なし）

配布資料：

資料 3-1：第 2 回幹事会（2014/7/8） 議事録（案）

資料 3-2：委員会の名簿

資料 3-3：断層問題に関する理工学合同委員会 規則（案）

資料 3-4：書籍のタイトル，構成・目次，執筆者の候補等に関するメモ

資料 3-5：著作権及び原稿料に関するメモ

資料 3-6：合同委員会としての活動に関するメモ

資料 3-7：BLUE BACKS の例 3 件（カバーと目次）

資料 3-8：大塚副委員長と向山氏の打合せ資料

議事：

1．新メンバーの紹介

藤井幹事より自己紹介があった。資料 3-2 の名簿を確認した。

2．前回（第 2 回，2014/7/10）議事録の確認

資料 3-1 を承認した。

3．規則の確認

資料 3-3 を承認した。

4．書籍に関する検討

谷幹事長より、資料 3-4 に基づいて、これまでの議論のまとめが説明された。大塚副委員長より、資料 3-8 に基づいて、理学分野の目次案が説明された。さらに、藤井幹事及び末岡アドバイザーより、資料 3-7 に基づいて、書籍の事例が紹介された。

（1）全体

- 断層問題に係る意見の多様性は、テーマによって状況は異なる。共通認識が確立しているテーマもあれば、認識に大きな隔たりがあるテーマもある。
- 読者層（ターゲット）について、“断層に興味を持つ教養人”のより具体的なイメージとして、ニュース番組や科学ドキュメンタリーを TV 視聴する一般人（主婦，高校生等を含む）とする。
- 回覧された BLUE BACKS（講談社）ないし自然科学分野の新書版に類似したものと
- する。
- 原則は縦書きだが、読み易ければ横書きも有り得る。
- 編集の方針として、ある程度の思想ないしストーリーを準備する。

（2）執筆者の候補

- 候補者の氏名（十数名）と執筆が可能な分野について議論した。
- 候補者の専門分野を考慮して、テーマの仕分け（案）を作成する。

（3）構成

- 3章（被害）を1章・導入部に移動する。
- リスクや社会に与える影響に係る内容は、工学ないし社会科学の当該テーマの専門家が担当する。
- インタビュー形式の部分の担当者
 - 偏見を持たず，かつ地球科学に関する深い知識を有するサイエンス・ライターが相応しい。
 - 幹事団が執筆を担当することもできる。例えば，國生委員長，堀副委員長，藤井幹事。

（4）タイトル

- 「断層の科学」を第1候補とする。
- サブタイトルを検討する。例えば，「何が分かって，何が分からないのか」等。

5．著作権と原稿料

谷幹事長より、資料3-5に基づいて、各学会のルールが説明された。

- 著作権については、委員会による構想や編集等の作業が大きいことを考慮して、各学会に帰属する（著者には帰属しない）こととした。
- 原稿料については、2種類の支払い方法（印税方式と原稿料（買取）方式）があることを確認した。今後、出版社とのやり取りを通じて決定することとした。

6．合同委員会としての活動

谷幹事長より、資料3-6に基づいて、趣旨と企画の例が説明された。

（1）各学会の年会におけるセッションの担当

- （公社）地盤工学会の第50回地盤工学研究発表会（2015/9/1-3，札幌市）においてDS（ディスカッション・セッション）等の開催希望に係るアンケートに、希望する旨の回答を提出することとした。
 - 論点となるテーマ（例えば，「何が分かって，何が分からないのか」）についてパネル・ディスカッションを行う。パネリストは執筆者から選ぶ。
 - アンケートの回答（締切9/19）は谷幹事長が作成し，メールで確認する。
- 来年度以降については，継続審議とする。

（2）各学会の会誌への記事の掲載

- 来年度以降に，書籍の販売促進も兼ねて，委員会の活動内容について投稿することとした。

7．その他

（1）今後の予定

- 第4回の幹事会は，12月8日（月）15-17時に，JGS会館の3階小会議室で開催する。幹事会の終了後に忘年会を開催する。
- 議事録の確認後，書籍のタイトル，目次，執筆者，編集方針等についてメールで意見を谷幹事長に送る。

（2）情報提供

- 9月18日（木）16:30-17:30に（公社）土木学会で講演会が開催される。講師は高尾誠氏（東電）で，題目は「断層変位の確率論的評価手法について」である（<http://committees.jsce.or.jp/enedobo/node/40>）。

以上（文責：谷 和夫）